

1. 学校のトピックス

- 1.1 学生活動
- 1.2 教育・研究活動
- 1.3 産学連携・地域連携
- 1.4 国際交流
- 1.5 その他

1. 学校のトピックス

1.1 学生活動

1.1.1 高校総体柔道競技香川県大会で3位に入賞しました

令和5年6月4日（日）に香川県立武道館にて開催された第63回香川県高等学校総合体育大会柔道競技の個人試合において、本校柔道部の1年生の前田海夷星選手が66kg級、3年生の和田知晃選手が73kg級でそれぞれ3位に入賞しました。

両選手は香川県代表選手として、6月18日（日）に高松市総合体育館にて開催される第72回四国高等学校柔道選手権大会に出場します。



3位入賞した前田選手、和田選手

1.1.2 ラグビー香川県総体で優勝しました

令和5年6月3日（土）に行われた第63回香川県高校総体ラグビー競技で、本校が参加する「香川合同」（香川高専、観音寺総合、坂出工業、高松北）が優勝しました。

本校からは、電気情報工学科3年 大喜多隼人さんが先発フル出場し、トライにつながる突破や要所でのタックルなど、活躍しました。

試合結果

期日 令和5年6月3日（土）

場所 香川県総合運動公園第2サッカー・ラグビー場

優勝戦

香川合同 40-31 坂出第一高校

（前半 12-7 後半 28-24）

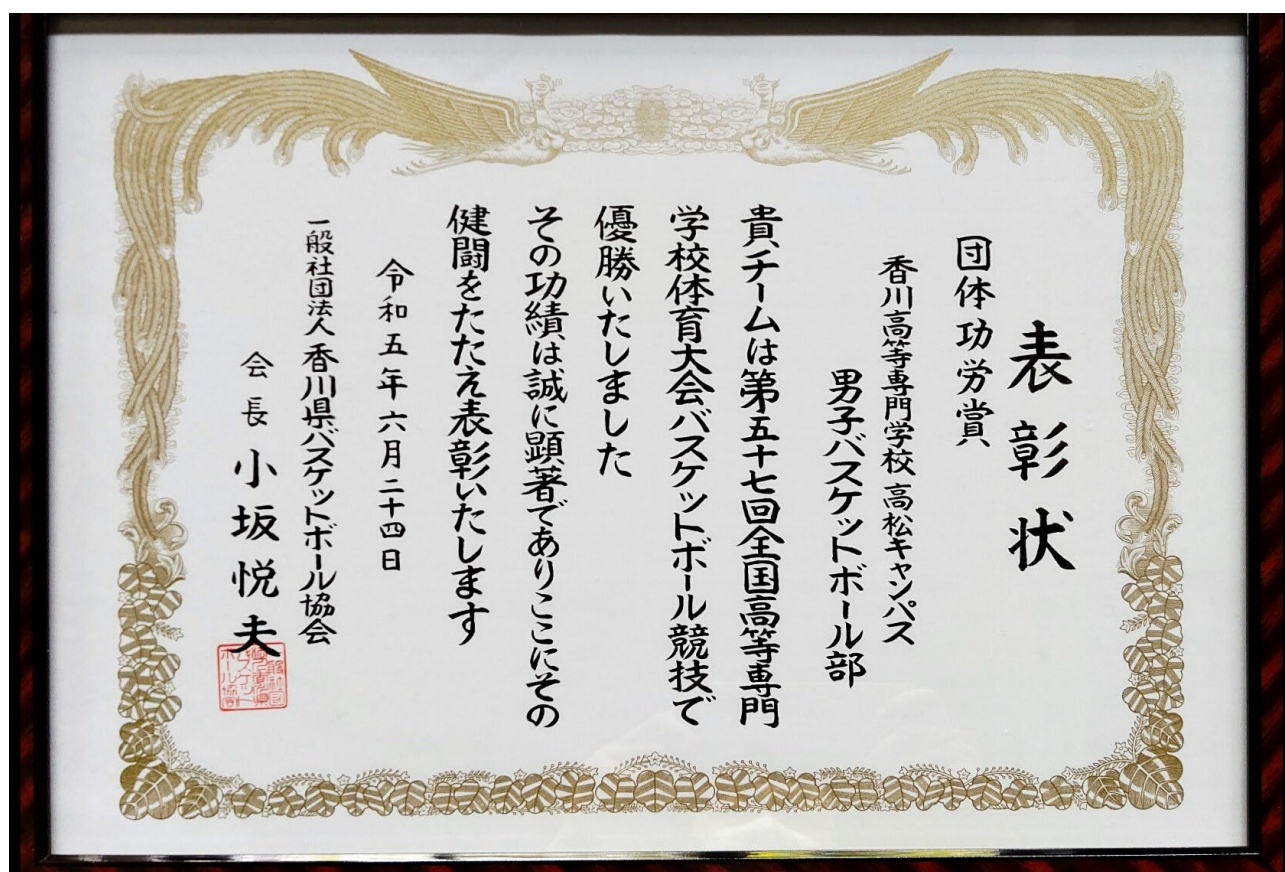
※香川合同（香川高専、観音寺総合、坂出工業、高松北）



1.1.3 バスケットボール部が団体功労賞を受賞しました

令和5年6月24日に開催された（一社）香川県バスケットボール協会の第8回社員総会において、高松キャンパス男子バスケットボール部が団体功労賞を授与されました。これは、昨年度の第57回全国高等専門学校体育大会バスケットボール競技で優勝したことが評価されたものです。表彰式では、同協会小坂悦夫会長から賞状と副賞が授与されるとともに、激励の言葉を頂きました。

部員一同、今年度の高専大会での連覇を目指して日々練習に励んでいます。



表彰状

1.1.4 国際寮での留学生とのシェアハウス生活が始まりました

国際寮への入居がようやく可能となり、6月25日までに入居学生の引っ越しが完了し、国際寮での生活が始まりました。

国際寮では、留学生を含めたメンバーとのシェアハウス生活を通して、国際感覚を学び、異文化理解を深めると同時に英語に慣れ親しむことを目的としています。



国際寮でのシェアハウス生活の様子

1.1.5 宇宙開発研究部員が、アメリカ研修旅行に参加しました

8月20日～25日に、本校、宇宙開発研究部の学生3名（本科5年生1名、本科3年生2名）が、アメリカ研修旅行に参加しました。本研修は、昨年12月に一般財団法人 WNI 気象文化創造センターが主催する第12回 高校・高専気象観測機器コンテストにおいて、本校学生が佐々木嘉和賞を受賞し、この副賞として企画されたものです。

学生3名は、オクラホマ大学において受賞したシステムである、「成層圏気球による上空の大気回収システム」での成果について英語で発表しました。またその前後で、レーダー研究施設や気象当局、ウェザーニューズのオフィスにおいて最先端の機材などを見学しました。日常では体験することの出来ない多くの刺激を受け、大きな成長につながったものと思います。



アメリカ研修での様子

1.1.6 第58回全国高等専門学校体育大会剣道競技で、女子個人優勝、男子団体戦準優勝の大活躍

令和5年8月26日～27日に千葉県総合スポーツセンターにおいて、令和5年度第58回全国高等専門学校体育大会剣道競技が開催され、女子個人の部で優勝、男子団体の部で準優勝に輝きました。

1日目に行われた個人の部では、男子2名、女子1名が出場しました。男子個人の部に出場した2名はベスト8の活躍、女子個人の部では、電気情報工学科2年の黒川歩未さんが順調に勝ち続け、決勝戦では延長戦の末、面を決め高専日本一に輝きました。

2日目の団体の部では、男子、女子ともに出場しました。女子団体の部では、予選リーグ突破とはなりませんでしたでしたが、男子団体の部では、3チームでの予選リーグを勝ち上がり、準決勝で福島高専を4勝1引き分けで破り、決勝戦へ進出しました。決勝戦では昨年度の優勝校である松江高専との対決で、中堅が勝利したものの厳しい試合展開となり、惜しくも準優勝となりました。

女子個人戦での優勝、男子団体戦の準優勝は、剣道部創設以来初の快挙となりました。

保護者等やOB、OGの皆様からの選手に対する盛大な応援、誠にありがとうございました。また、担当校の木更津高専の様々な競技運営におけるご配慮のおかげで、無事に開催していただくことができました。感謝申し上げます。

女子個人の部：優勝

電気情報工学科2年 黒川 歩未

男子団体の部：準優勝

機械電子工学科2年 橋本 葵

電気情報工学科3年 高橋 太和

建設環境工学科3年 岩田 侑真

電気情報工学科2年 中村 駿太

機械工学科 1年 物部 蒼汰

電気情報工学科2年 佐藤 崇人

機械工学科 1年 泉 周吾

大会の活躍については、令和5年9月2日の四国新聞12面にも掲載されました。

四国新聞Web版：<http://www.shikoku-np.co.jp/sports/local/20230902000163>



集合写真

1.1.7 陸上部 7月～9月の活動（全国高専大会 やり投 1位）

陸上部の7月～9月の主な結果を紹介します。

7月に第60回 四国地区高等専門学校体育大会（愛媛県西条市）に出場し以下の成績を収めました。

男子 4×100 リレー 1位

メンバー 東条 竜也（機械工学科 5年）

藤村 修冬（電気情報工学科 4年）

田井 琉雅（電気情報工学科 3年）

池田 駿陽（建設環境工学科 2年）

男子 円盤投 藤村 修冬 1位

男子 やり投 藤村 修冬 1位 60m93cm（大会新記録）

8月に開催された第58回全国高等専門学校体育大会（新潟県新潟市）で以下の成績を収めました。

男子 やり投 藤村 修冬 1位 60m99cm

9月に出場した大会の主な結果は以下の通りです。

2023年度屋島陸上競技カーニバル大会（香川県高松市）

男子 やり投 藤村 修冬 1位

令和5年度香川県高等学校新人陸上競技対校選手権大会（香川県丸亀市）

男子 8種競技 工藤 竣大（建設環境工学科 1年） 1位

以上です。



胴上げの様子



男子やり投げで優勝した藤村選手

1.1.8 全国高専プロコンで香川高専のチームが自由部門で最優秀賞を受賞しました

令和5年10月14(土)～15(日)に、福井県鯖江市にあるサンドーム福井において、第34回全国高等専門学校プログラミングコンテストが実施されました。昨年に続き、現地で開催となった福井大会に、両キャンパスから競技部門、課題部門にそれぞれ1チームずつ、詫間キャンパスから自由部門に参加しました。

自由部門では、砂と時を操作して、デジタル技術によって“わびさび”の美を体験できる作品「わんもあ-砂と鏡で創るもう一つの世界-」を詫間キャンパスのチームが開発し、最優秀賞、文部科学大臣賞、情報処理学会若手奨励賞、電子情報通信学会若手奨励賞に輝きました。

課題部門では、「オンラインで生み出す新しい楽しみ」というテーマに沿って各高専が開発した独創的なシステムが出展されました。その結果、詫間キャンパスが開発した踏み台デバイスを使った健康増進システムである「UPUPUP」が、特別賞を受賞しました。また、高松キャンパスは、じゃんけんをオンラインで対戦できる「Janken Areana -Revise the hand-」を開発し敢闘賞を受賞しました。

競技部門では、「決戦！ n乗谷城」という競技が行われました。高松キャンパスは準々決勝敗退（ベスト8）、詫間キャンパスは敗者復活戦で惜しくも敗れました。



自由部門最優秀賞受賞



最優秀賞受賞作品「わんもあ」



詫間キャンパスの自由部門
出場メンバー



高松キャンパスの出場メンバー
(課題、競技部門)

1.1.9 アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト 2023 四国地区大会結果報告

令和5年10月22日(日)に高知工業高等専門学校で「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト 2023 四国地区大会」が開催されました。競技テーマは「もぎもぎ！フルーツGOラウンド」で、ロボットが障害物を乗り越え、フルーツを収穫する競技です。高松キャンパスからは、Aチーム「ボクシングヘッジ」とBチーム「Sinhelite」、詫間キャンパスからは、Aチーム「Flawless」とBチーム「Marvelous」のそれぞれ2チームが出場し、各チーム接戦を繰り広げました。結果は以下のとおりです。

アイデア賞	高松キャンパス A チーム
特別賞（本田技研工業）	高松キャンパス B チーム
特別賞（田中貴金属グループ）	詫間キャンパス B チーム
特別賞（デンソー）	詫間キャンパス A チーム

各チームとも決勝トーナメント進出はなりませんでした。詫間キャンパス A チームは、ロープや段差を安定して乗り越える機構が評価され、推薦枠で全国大会出場へのキップを手に入れました。

詳細は後日このトピックスにて掲載します。また、大会結果は、下記高専ロボコン公式ホームページをご覧ください。

<https://official-robocon.com/kosen/>



エキシビジョンで熱戦する、詫間キャンパス A チーム「Flawless」（右側）と高松キャンパス A チーム「ボクシングヘッジ」（左側）

1.1.10 詫間キャンパスプロコンチームが三豊市長を表敬訪問しました

令和5年10月14日（土）～15日（日）にサンドーム福井で開催された第34回全国高等専門学校プログラミングコンテストにおいて最優秀賞、文部科学大臣賞、情報処理学会若手奨励賞及び電子情報通信学会若手奨励賞を受賞した詫間キャンパスの開発チームのメンバーと指導教員が、11月13日（月）三豊市長を表敬訪問し、コンテストの結果を報告しました。本キャンパスの最優秀賞受賞は、通算8回目となります。

詫間キャンパスのチームが開発した、砂と時を操作して、デジタル技術によって“わびさび”の美を体験できる作品「わんもあ-砂と鏡で創るもう一つの世界-」について、チームリーダーの4年情報工学科山田美羽さんから説明があり、市長からはお祝いの言葉と、記念品をいただきました。

歓談では、市長から「素晴らしい！ぜひ市民の皆さんへPRする場を設け、たくさんの方に作品を体験してほしい」とのお話があり、終始和やかに歓談が行われました。



市長との記念撮影



開発した作品を説明する様子

1.1.11 高専 GIRLS SDGs x Technology Contest (高専 GCON2023) ユース賞受賞

第2回 高専 GIRLS SDGs x Technology Contest (高専 GCON2023) が開催され、詫間キャンパスから本科2年生5名(女子学生4名・男子学生1名)が、チーム「きなこあげばん」としてエントリーしました。

結果、85 チームの中から、見事面談審査に進出し、メンバー全員が3年生以下のチームが対象となる「ユース賞」を受賞しました！

提案テーマは『「子どものおでかけを便利にする「べんりーべいびープロジェクト」』です。赤ちゃんのおでかけの際、荷物が多くなりがちで大変なこと、パパが使えない授乳室もあって不便なことに着目しました。問題解決のため、ベビー用品の自動販売機と連携するアプリケーションを提案しました。パパが育児に積極的に参加できるようになり、女性の社会進出や男女が共同で参画する社会の実現につながります。

夏休み中もミーティングを繰り返し、全員で協力して、ひとつのテーマを作り上げました。まだ研究や発表経験が少ないなかで、日頃学んでいる技術が SDGs 観点から社会問題に対してどう貢献できるか考えることができました。



きなこあげばん集合写真



初回ミーティング (8月)



ミーティング (10月)

1.1.12 令和5年度ピア・サポーター育成研修を開催しました

令和6年1月25日、株式会社 ONDO の谷益美先生を講師にお招きし、高松キャンパスで令和5年度香川高専ピア・サポーター育成研修「聞く力、伝える力で互いに支え合う 高専生のためのコミュニケーションスキルセミナー」を開催しました。

ピア・サポートとは、ピア（peer＝友達、仲間、同輩）を支援することを意味します。親や教員が入り込むことのできない悩み・問題の解決のため、友達同士で助けあうサポートスキルを学生が身につけ、学校生活を充実することを目的としています。

研修に参加した学生たちは、困っていることを実際に相談し合うなどのワークを通じて、「伝わる伝え方」、「話しやすい聞き方」などのコミュニケーションスキルについて楽しく学びました。

昨年度のピア・サポーター育成研修にも参加していた2名の学生は、今回の研修を通してより学びを深めていました。

令和5年度ピア・サポーター育成研修を開催しました



令和5年度ピア・サポーター育成研修を開催しました

1.1.13 キャンパスベンチャーグランプリ四国で特別賞をダブル受賞

令和5年12月4日（月）に“学生起業家の登竜門”である、「第21回キャンパスベンチャーグランプリ四国」が開催されました。

学生が新たな事業を提案するビジネスコンテストで、書類審査（41件）をパスした最終選考に電子システム工学科4年の山田愛乃さん、宮武眞子さん、三田耀介さん、電子情報通信工学専攻2年の高橋涼さんが参加しました。

山田さん、宮武さん、高橋さんは、“見る見る milk るーむ”と題し、みんなが安心快適に授乳室を使うことを手助けするシステムのアイデアを、また三田さんは、“コントレ”と題し、ラッシュ時の満員電車の中の人々の動きをAIで管理することで、電車を乗り降りする人や立っている人が快適に使用できるアイデアを提案し、それぞれ「特別賞 四国産業人クラブ賞」と「特別賞 鎌長製衡賞」を受賞しました。



四国産業人クラブ賞 受賞チームのプレゼン



鎌長製衡賞 受賞チームのプレゼン



特別賞を受賞しました



関係スタッフと一緒に受賞後の記念撮影

1.1.14 第19回環境フォト・コンテストで金賞に輝きました

第19回環境フォト・コンテスト（出光興産主催）の高校・高等専門学校部門にて、応募総数の4,173作品の中から、1年生の白石翔さんの作品「紫雲出山の陰と陽」が見事金賞に輝きました。このコンテストは、いつまでも残したい「○」の風景と、すぐに改善したい「×」の風景を写真にして、コメントを添えて作品にするフォト・コンテストで、授業「表現コミュニケーションⅠ」におけるSDGs理解のための課題として1年生全員が取り組みました。白石さんは、紫雲出山の美しい桜の風景と、桜がテンダス病に侵されている風景とを対比させた、見事な作品を作り上げ、金賞受賞となりました。本当におめでとうございます。白石さんの受賞作品は以下のHPで公開されていますので、ぜひご覧ください。

<https://www.idemitsu.com/jp/enjoy/kids/photo/gallery/2023/hs/>



高校・高等専門学校部門 金賞



受賞作品「紫雲出山の陰と陽」

1.1.15 高専ピッチオブザイヤーで銀賞を受賞

昨年度に応募した2023全国高専ピッチファクトリーの最終審査発表が令和6年3月に公表されました。当校から参加していた「しんとーガタそっこうゲッター」チームの専攻科創造工学専攻2年・宮谷真也さんらが取り組んだ「側溝から地中への雨水のしみこみやすさについて」で高専ピッチオブザイヤー・銀賞を3年連続獲得することができました。

本発表は、香川高専の実践的な取り組みを社会実装へつなげる良い機会となり、今後、研究推進と産学連携の一層の充実につながるものと期待されます。



記念撮影の様子

1.1.16 第11回ハイスchoolジオラマグランプリにてベストプレゼンテーション賞を受賞しました

2024年3月22日～24日に浜松市にて、第11回ハイスchoolジオラマグランプリ（HiD2024）が開催され、全国の高校等から計30チームが手作りのジオラマ作品で競い合いました。

本校美術部からは3チーム「GYOZAの百鬼夜行」「おりーぶ」「レンチン」が参加しました。3チームとも熱意をかけて細部まで作り込んだジオラマ作品を展示し、工夫点や思いを伝えるプレゼンテーションを行いました。

チーム「GYOZAの百鬼夜行」は、完成度の高い作品「みんなで歌おう ゲゲゲのゲ」と熱意あふれるプレゼンテーションが高く評価され、ベストプレゼンテーション賞に輝きました。

受賞した作品は、浜松ジオラマファクトリーにて次回までの1年間展示されます。

<https://hid-gp.wixsite.com/hid-club-house>

<https://hamamatsu-diorama.com/>



ベストプレゼンテーション賞受賞



受賞作品「みんなで歌おう ゲゲゲのゲ」

1.1.17 第16回新☆エネルギーコンテストに参加し企業賞を受賞しました

2023年10月21日に日本大学工学部（福島県郡山市）において日本機械学会技術と社会部門主催で開催された第16回新☆エネルギーコンテストに参加しました。

本コンテストは大学・高専の学生を主な対象とする「エネルギー利用」に関するコンテストで、本年度においては機械電子工学科相馬研究室から1名が「太陽熱エネルギーの有効活用に関する研究」のタイトルでエントリーしました。今回はZOOMを用いたリモートでの参加となりましたが、発表者である尾形直紀君がプレゼンテーションで研究成果をアピールし、企業賞である「アルトナー賞」を受賞することができました。

今回の新☆エネルギーコンテストの参加および受賞を契機に、今後もエネルギー分野における教育および研究を意欲的に取り組んでいきたいと考えます。



企業賞（アルトナー賞）を受賞

1.1.18 西日本工業大学の女子学生サークルEWAと交流会をしました

令和6年2月27日に、建設環境工学科の任意団体である「たかまつ土木女子の会」と西日本工業大学の女子学生サークル「EWA (Engineering Women's Association)」が、日頃の女子会活動に関する意見交換を行う交流会を実施しました。

各会が、設立の経緯や日頃の活動について発表をし、今活動で課題になっていることについての相談や、子ども向けのイベントで実施している仕事を一緒に行い、交流を深め、短い時間ではありましたが、有意義な時間となりました。

EWAの皆さま、ありがとうございました。



交流の様子

1.2 教育・研究活動

1.2.1 本校研究室の研究成果が美幌博物館に展示されました

高橋研究室（高橋直己准教授，建設環境工学科）の研究成果が、美幌博物館（北海道美幌町）の特別展「カメラは見た！動物たちの素顔」にて展示されました（特別展開催期間：令和5年3月25日～10月22日）。この特別展では、北海道で暮らす動物たちの興味深い行動や、生息環境の現状などが紹介されています。それらの一つとして、高橋研究室が開発した持ち運び可能な魚道＊を活用した、サケなどの移動環境の改善に関する活動の説明が、美幌町の現場で使用された魚道と共に展示されています。高橋研究室と美幌博物館は、今後も共同で水生動物の生息環境保全に取り組みます。

美幌博物館：特別展「カメラは見た！動物たちの素顔」

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/page/2023020400016/>

YouTube：「美幌博物館」ポータブル魚道を使ってみよう

<https://youtu.be/x9gW6Dtt88>

＊魚道・・・ダムや堰堤などの落差構造物に設置される水生動物の通り道



美幌博物館



特別展入口



美幌博物館に展示された高橋研究室の研究成果



美幌博物館に展示された高橋研究室の研究成果

1.2.2 創造実験・実習で電子システム工学科の「ロボットコンテスト決勝トーナメント」を行いました

詫間キャンパスでは1年生に工学導入教育として「創造実験実習」が週4時間導入されています。全学科所属の学生が、それぞれ学科の特徴を取り入れた創造実験・実習テーマを1年間でローテーションします。

電子システム工学科で取り組んでいるレゴマインドストームを使用した創造実験では、オリジナルリモコンを使用し、各自が製作したロボットでロボットコンテストを開催しています。予選が行われ決勝トーナメントに参加する8名が決まりました。

決勝トーナメントは対戦型で時間(2分)、ルールも変わり予選の順位と大きく入れ替わりました。対戦型のため相手の動きを見ながら作戦を立て相手が取った点数を上から自分の紙コップをかぶせて自分の得点にするなど極限状態での判断により勝敗が決まります。

決勝トーナメントでは何回も逆転するなど最後に得点を計算するまでどちらが勝利かわからない試合が続き、大変盛り上がりました。



1.2.3 令和5年版 科学技術・イノベーション白書に掲載されました

この度、DCON2022に出場した、香川高等専門学校の「NanShon 健康状態見守りシステム」が、令和5年版 科学技術・イノベーション白書に掲載されましたので、ぜひご覧ください。

文部科学省－白書・統計・出版物－白書－科学技術・イノベーション白書

https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpaa202301/1421221_00014.html

1.2.4 令和5年度教育実践事例報告会を開催しました

令和5年12月1日（金）、令和5年度教育実践事例報告会を開催しました。

この報告会は、香川高専の教員が学生の意欲を増進させる教育実践に関わる事例・工夫などFDに寄与する事項の報告の場として、毎年実施しています。令和2年度からは、Teamsによる報告会を実施していましたが、今年度は4年ぶりに集合形式での開催となりました。

両キャンパスから3名の教員が各種取り組み及び特色ある教育に関する実践について報告があり、80名の教職員が参加しました。

参加した教員からは、報告事例に対して活発な質問が出るなど有意義な報告会となりました。

発表演題

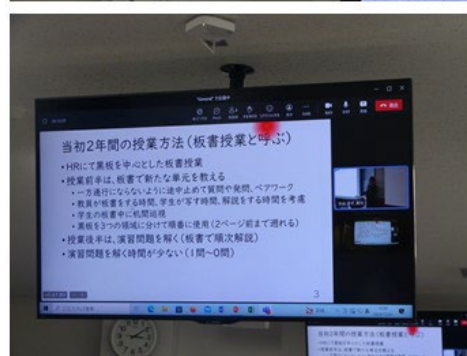
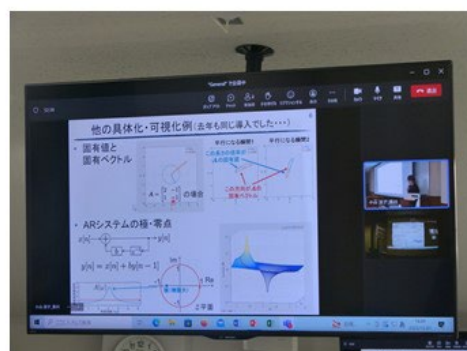
- ・「MATLABを用いた線形代数・データサイエンス教育の実例」
電気情報工学科 北村 大地教員
- ・「力学科目におけるグループワークを中心とした授業改善」
建設環境工学科 林 和彦教員
- ・「研究室内の学生間の交流と技術継承を目的とした勉強会の実践例」
電子システム工学科 吉岡 源太教員



校長先生 挨拶



高松キャンパスの様子



1.2.5 2024 IEEE Global Student Wireless Power Competition (SWPC) において専攻科生と専攻科修了生を含むチームが1st Stage を通過しました

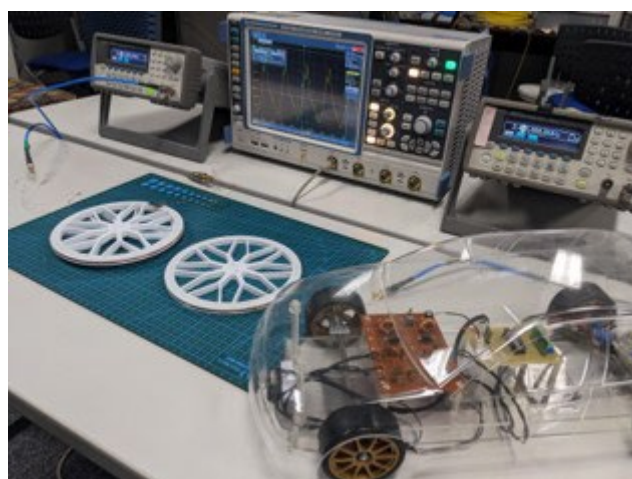
IEEE Global Student Wireless Power Competition は、IEEE が主催する無線電力伝送技術の研究開発を奨励するコンテストで、無線電力伝送の能力を実証し、実用化を促進するために設けられています。このコンテストには、世界中の高校、高専、短大、大学、大学院生が参加できます。12月18日（月）に1st ステージを通過した20チームが発表されました。電子情報通信工学専攻1年の西山真平さんと2022年3月に電子情報通信工学専攻を修了した浦上大世さん（現在、大学院博士課程）を含むチームが、日頃の研究成果を「Hybrid WPT System Combining MIMO Coil-based Magnetic Resonance WPT and Energy Harvesting-based Microwave WPT」と題して投稿したデザイン企画書が1st ステージを通過しました。

SWPC2024 1st ステージ通過者は以下のHPで確認できます。

<https://ieee-wptce2024.org/student-competition#list>



チームメンバーでの討論の様子



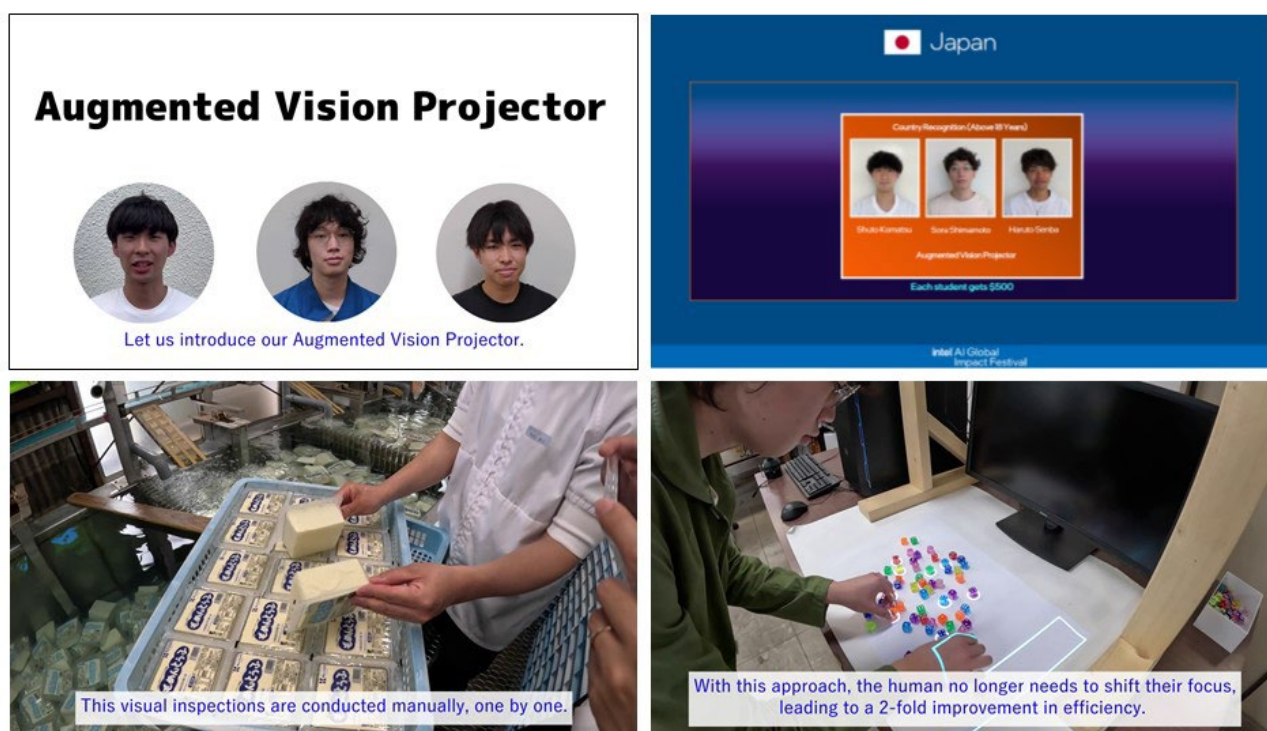
試作中のデモ機

1.2.6 Intel AI Global Impact Festival 2023 で Country Recognition Award を受賞しました

詫間キャンパス・電子システム工学科・三崎岩本研究室の学生が開発した AI を利用した作品「Augmented Vision Projector（視覚拡張プロジェクタ）」が Intel AI Global Impact Festival 2023, AI Impact Creators Category - Ages 18+で Country Recognition Award を受賞しました。

Augmented Vision Projector は画像認識 AI を利用して物体を認識し、その認識結果をプロジェクタで直接物体に投影することで人間の作業を手助けしようとする装置です。地元のお豆腐屋さんから「出荷時の検品作業が大変で困っている」という話を聞き開発に着手しました。現在はまだ実証実験を行っている段階ですが、今後も研究開発を継続し実用化を目指したいと思います。

<http://www.kagawakosen-mirai.com/?p=9571>



受賞作品

1.3 産学連携・地域連携

1.3.1 2022NEW 環境展に出展しました

本校専攻科卒業生がベンチャー企業「(株)D-yorozu」を設立し記者会見しました

2023年4月20日9時15分～詫間キャンパス第4講義室において、2023年3月に専攻科電子情報通信工学専攻を修了した柏原悠人氏、山田 斉氏が高専発ベンチャー(株)D-yorozu (ディー・ヨロズ)を起業し設立記者会見を行いました。(本校3例目)

最初に(株)D-yorozuの柏原悠人氏(CEO)、山田 斉氏(CTO)から会社設立の報告と今後のビジネス計画としてDCON2022の実績のプロダクト化を中心とし、AIを活用したデータ分析、ハードウェアの開発、プログラミング教室などを行うことが発表されました。

その後、遠隔により参加頂いた東京大学大学院松尾豊教授がDCON2022以降のサポート状況と設立の経緯、今後の目標などを紹介、本校田中校長から香川高専が推進しているスタートアップを推進する組織やサポート体制を説明して頂きました。

最後に山下三豊市長から三豊市として(一社)みとよ AI 社会推進機構:MAiZMを中心にサポートし、高専発スタートアップをさらに推進したいとビデオメッセージを頂きました。

今後「AI 社会実装教育研究本部」や(一社)みとよ AI 社会推進機構:MAiZMが(株)D-yorozuをサポートするだけでなく、(株)D-yorozuに続く香川高専発ベンチャーの起業を目指したいと思います。

<http://www.kagawakosen-mirai.com/?p=9381>



(株)D-yorozuの設立経緯の説明



サポート状況・設立経緯・目標
東京大学大学院 松尾豊教授のメッセージ



香川高専の取り組み

田中校長の説明



山下三豊市長メッセージ



記者会見後の取材

1-3-2 高専ワイヤレス IoT コンテストの成果発表会で TEAM RPTL が LTE-M 検証大賞を受賞しました

5月25日(木)東京ビッグサイトで行われている「ワイヤレス・テクノロジー・パーク (WTP)」において、高専ワイヤレス IoT コンテスト WiCON2022「高専が地域を変える!」の成果発表会が行われました。昨年度 WiCON2022 に参加した電子システム工学科の TEAM RPTL が「通信困難地域での LTE-M を使用した通信検証」というテーマで成果発表を行い LTE-M 検証大賞を受賞しました。

<http://www.kagawakosen-mirai.com/?p=9397>



 **WiCON2022** 成果発表会
KOSEN Wireless IoT Contest

LTE-M検証大賞 受賞
● TEAM RPTL (香川高等専門学校)



1.3.3 一関高専主催の「一関高専学生×起業家交流会」に参加しました

12月21日（木）に市街地活性化センター「なのはなプラザ」で一関高専主催の「一関高専学生×起業家交流会」が行われ起業を考えている学生4名が参加しました。

交流会では、最初に磐井 AI(株)代表取締役 CEO で Creo creators 代表の一関高専専攻科2年菊地佑太氏、岩手県政策メンターでNext IWATE 代表の一関高専専攻科1年上野 裕太郎氏を講師として、「学生起業家が捉えるアントレプレナーシップとは」と題し、トークセッションが行われました。菊地氏から学生起業の強み、リスクに対する考え方、学生起業家に必要な心構え、学生を最大限に生かした経営戦略などについての説明を聞きました。参加した学生は起業についてこれからの考え方を勉強することが出来ました。

次に行われたパネルディスカッションではDCON 審査員、メンターの(株) ABEJA の代表取締役 CEO 岡田陽介氏が参加し、高専生の強み、高専学生起業のビジネスの作り方、DCON メンターの考え方、DCON の参加意義、わからなければ相談できる関係づくりなどアドバイスをもらいました。DCON 参加予定の学生も今後のビジネスプラン等の考え方などで役立つ話でした。

<http://www.kagawakosen-mirai.com/?p=9561>



集合写真

一関高専主催の「一関高専学生×起業家交流会」に参加しました



香川高専の紹介



トークセッション・パネルディスカッション



交流会



ABEJA岡田さん



1.3.4 起業家工房がOPENしました

令和6年1月15日（月）、両キャンパスに「起業家工房」がオープンしました。

香川高専では、文部科学省の令和4年度大学改革推進等補助金「高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業」により、スタートアップ人材の育成を目指した取り組みを行っており、学生が主体的に設計から製作まで一連の作業を行える場所として起業家工房の整備に取り組んでまいりました。

高松キャンパスの「起業家工房」には、高精細3Dプリンタ、3Dモデリングマシン、ロボットアーム、3Dレーザースキャナ等を導入し、学生が自らのアイデアを自由に形にしたり、仲間と試行錯誤しながらものづくりに取組んだりすることのできる環境を整備しました。また、起業家工房のルームプレートデザインを学生から募集しており、最優秀賞に選ばれた学生には、起業家工房に導入した機器を使用して実際にルームプレートを作製してもらいます。

詫間キャンパスの起業家工房は愛称を「AIファブスペース」とし、学生が個人、グループで自由にものづくりができる環境を整備するため、小型工作機械、3Dプリンタ、プリント基板加工機、レーザーカッター等を導入します。各種コンテスト等に参加するためのプロダクトをワンストップで作ることができます。

起業家工房の活用を通じて、学生のスタートアップ等、主体的で自由な挑戦を応援します。



（高松キャンパス）



（詫間キャンパス）

1.3.5 一関高専で行われた「パテコンサミット in 一関」に参加しました

12月26日（火）に一関高専共通会議室で行われた「パテコンサミット in 一関」に参加しました。知財教育を積極的に行っている大学として徳島大学出口先生、大阪工業大学辰巳先生、高専からは沼津高専、一関高専、香川高専、さらに前パテントコンテスト副委員長飯田先生、INPIT 知財人材部長岡澤氏が参加し、発表やディスカッションは全国の大学・高専に Zoom 配信し多数参加しました。

第1部では「パテントコンテストの更なる発展と普及」と題して各大学、高専の取り組みを紹介しました。香川高専は学生起業における知財教育の重要性を発表しました。

第2部では「知財創造教育の普及、必修化」と題してこれから知財教育を推進していくためにどのような戦略が必要かについてそれぞれの立場で考えられることを議論しました。

高専が推進している学生起業に必要な能力として知財を活用する能力を身につける必要があると感じました。

<http://www.kagawakosen-mirai.com/?p=9564>



1.3.6 高松キャンパス起業家工房のオープニングイベントを開催しました

令和6年1月23日（火）、高松キャンパス「起業家工房」のオープニングイベントを開催しました。

香川高専では、文部科学省の令和4年度大学改革推進等補助金「高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業」により、スタートアップ人材の育成を目指した取り組みを行っており、学生が主体的に設計から製作まで一連の作業を行える場所として起業家工房の整備を行ってきました。

イベントには学生22人が参加し、田中校長からの挨拶の後、向谷地域イノベーションセンター長からの事業概要及び本校の取り組みについての紹介、学生に募集していた起業家工房ルームプレートデザインの表彰式、起業家工房に導入した機器のお披露目会を行いました。

参加した学生からは、夢が広がった、頭の中のイメージを形にできる場所でわくわくする等、前向きな意見をいただきました。

起業家工房の活用を通じて、学生のスタートアップ等、主体的で自由な挑戦を応援します。



1.3.7 「歯車で作るカラクリおもちゃ」ワークショップを「空飛ぶクルマ@高松」に出展しました

1/21（日）にサンポート高松デックスギャラリーで開催された「空飛ぶクルマ展@高松」において、香川高専がワークショップ「歯車で作るカラクリおもちゃ」を出展しました。本校のワークショップには小中学生を中心に120名を超えるお客様に参加していただき、そのご家族の方にも見学していただきました。

ワークショップで参加者は、本校の次世代自動車研究部の学生のサポートを受けながら、木製の歯車で出来たキーホルダーを組み立てました。完成したキーホルダーは参加していただいたお礼としてお持ち帰りいただきました。

見慣れない工具を使って工作をする体験を通して、ワークショップを楽しんでいただけた様子でした。



ワークショップの様子



製作したキーホルダー

1.3.8 託間キャンパス「起業家工房：AI ファブスペース」のオープニングイベントを開催しました

令和6年1月31日（水）、託間キャンパス「起業家工房：AI ファブスペース」のオープニングイベントを開催しました。

香川高専では、文部科学省の令和4年度大学改革推進等補助金「高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業」により、スタートアップ人材の育成を目指した取り組みを行っており、学生が主体的に設計から製作までワンストップで作業を行える場所として起業家工房の整備を行ってきました。

オープニングイベントには学生16名、起業OB3名、教職員10名、報道関係3名の参加がありました。田中校長からの挨拶の後、みらい技術共同教育センター長からの事業概要、起業家工房に導入した機器の紹介を行いました。次に在学中の学生に起業OB2社から、自社の説明、シーズ紹介、事業説明等を行い本科卒業後、専攻科修了後に起業という選択肢もあると紹介してもらいました。在校生の新しいシーズとして研究基礎Ⅱで実施したシーズ紹介を2年生が行いました。

最後に夏に実施したAIサマースクールにおいて優秀な成績を収めた学生の表彰式を行いました。

参加した学生からは、夢が広がった、頭の中のイメージを形にできる場所でわくわくする等、前向きな意見をいただきました。

「起業家工房：AI ファブスペース」の活用を通じて、学生のコンテスト参加、スタートアップ等、主体的で自由な挑戦を応援します。

（みらい技術共同教育センター・託間キャンパス AI 社会実装教育研究センター）

<http://www.kagawakosen-mirai.com/?p=9597>



1.4 国際交流

1.4.1 台湾国立成功大学のHsu先生とLee先生が来校されオンライン授業や学術交流について学生に紹介しました

成功大学と香川高専は2021年3月にAIやロボティクスを中心とする学術交流協定MOUを締結しており、2021年度から毎年後期にオンライン授業「Introduction to Image Recognition AI and Robotics Lab」を合同で開講しています。

令和5年6月9日に成功大学のHsu先生とLee先生が来校され田中校長、詫間キャンパスAI社会実装教育研究センター三崎センター長、岩本副センター長と今後のAIやロボティクスを中心とする学術交流について情報交換しました。その後、詫間キャンパスの学生に対し、台湾成功大学の紹介、オンライン授業の紹介が行われました。Hsu先生からは今年度のオンライン授業の受講を最初に決めた学生1名に台湾からのお土産がプレゼントされました。

※成功大学とのオンライン授業や学術交流は今後、高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業の一環として行います。

<http://www.kagawakosen-mirai.com/?p=9405>



1.4.2 本校学生がNZ英語研修から帰国しました

9月18日(月)、本校の学生5名がニュージーランドのクライストチャーチ工科大学附属語学学校で4週間の海外英語研修を終え、無事帰国しました。期間中、学生はクライストチャーチ市内の各家庭でホームステイをしていました。平日は路線バスで登校し、月曜から木曜までは校内で英語の授業を受け、金曜はフィールドトリップなどのアクティビティに参加しました。また、週末はホストファミリーに観光に連れて行ってもらい、異文化に触れる生活を送りました。

英語や海外生活についてこれまで以上に自信を深め、大きく成長した5名の学生は、授業の最終日に修了証書を受け取りました。クライストチャーチの桜が咲き誇る中、充実した4週間の研修を素晴らしい形で締めくくりました。本校にとって4年ぶりとなった海外英語研修について、学生達は10月末の学内報告会でその成果を伝えてくれます。



ボルダリング



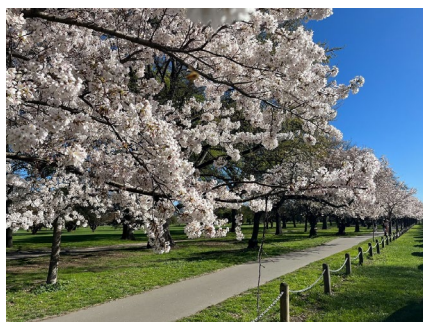
ダイヤモンドハーバー



修了証書



修了式



ハグレー公園の桜

1.4.3 専攻科生がフランスへ出発しました

10月4日（水），専攻科2年生の3名がトゥール大学（フランス）に向けて出発しました。これは、本校のグローバルエンジニア研修（GET）プログラムの一環であり、本校と学术交流協定を締結するトゥール大学ブリア校にて約3か月間の研究インターンシップを実施するものです。与えられた研究テーマに対して、現地の指導教員や学生と協同しながら解決に向けて取り組んでいきます。また、クラスや交流行事などに参加する予定です。

高松市とトゥール市が姉妹都市であることから、本校は2015年12月にトゥール学生と学术交流協定を締結し、毎年、学生交流を行っています。



Photo1



Photo2

1.4.4 留学生見学旅行で小豆島を訪れました

留学生およびそのチューター・日頃から留学生と交流機会の多い学生らを対象とした日帰り旅行を10月29日（日）に実施し、総勢16名で小豆島の主な観光地を巡りました。

まずはヤマロク醤油さまの醤油蔵を見学し、その後、道の駅小豆島オリーブ公園で昼食と散策。学生たちはハウキで空を飛びました。寒霞溪ロープウェイで頂上まで上がり、島を一望しながらハイキングを楽しみました。潮が引いた夕刻にはエンジェルロードに立ち寄って砂の道を楽しみ、充実した一日でした。



Photo

1.4.5 マラ工科大学(マレーシア)と学術交流協定を締結しました

11月2日(木)、本校の田中校長と須藤事務部長がマラ工科大学(マレーシア)との学術交流協定書に署名しました。マラ工科大学とは2010年8月に最初の学術交流協定を締結して以来、国際会議の共催や学生交流を行ってきました。今回は、協定書を更新し、お互いに署名した文書を郵送する形式での調印となりました。

今後もマラ工科大学と様々な形で交流を実施していきます。



署名する田中校長(右)と須藤事務部長



署名後の記念撮影
田中校長(右)と太良尾国際交流室長(中)と
須藤事務部長(左)

1.4.6 令和5年度留学生交流会を開催しました

令和5年12月4日(月) 詫間キャンパスにおいて令和5年度留学生交流会を開催しました。交流会では、カンボジア、マレーシア、インドネシア、ラオスの4カ国の留学生が、小さいころ好きだった料理や昔話について発表しました。また、今回は新型コロナウイルス感染症の流行前の立食パーティー形式で開催でき、留学生とご参加いただいた国際交流団体や留学生支援団体のご来賓の方々との対話もできました。本交流会を契機とし、留学生と地域の皆様との一層の相互理解が深まることを期待しています。



集合写真



立食パーティー



校長挨拶

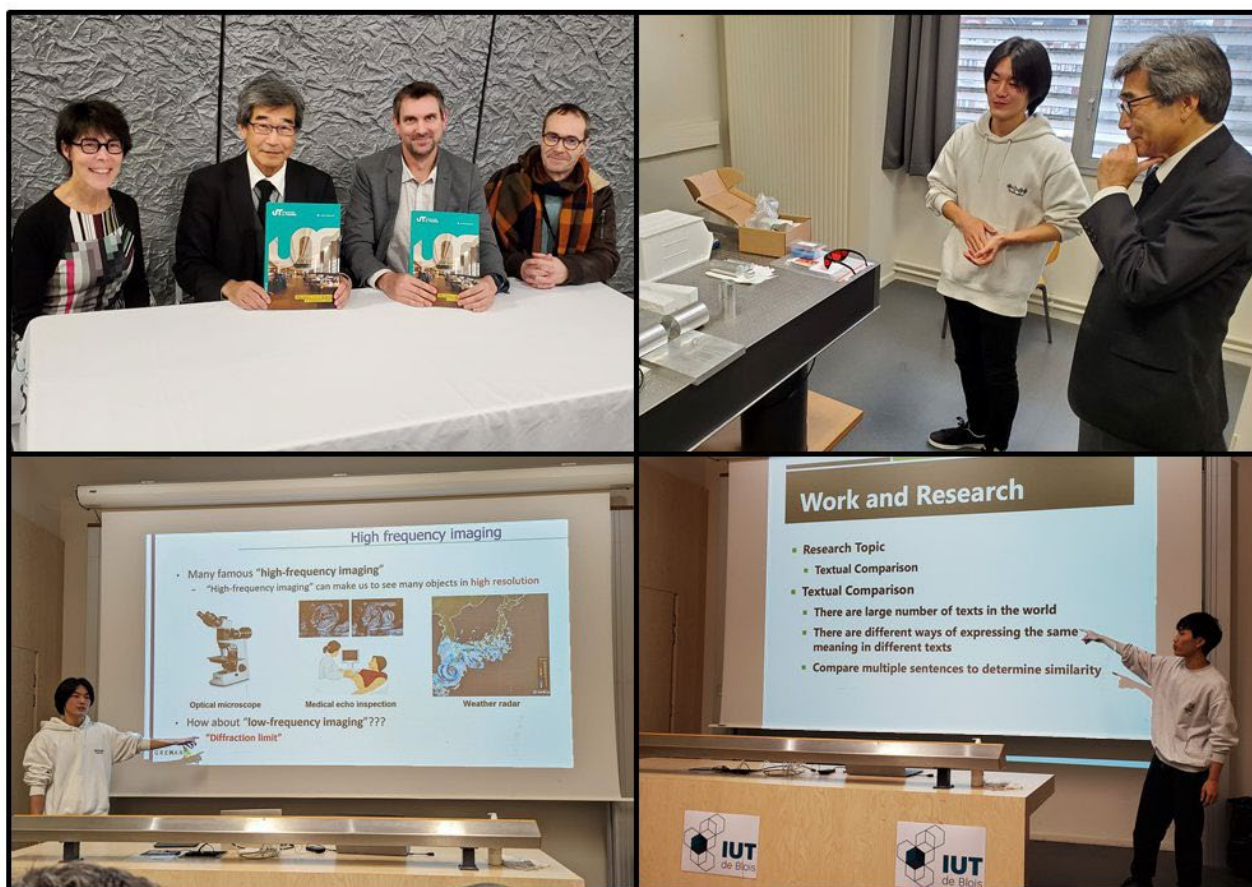


留学生による子どもの頃好きだった料理や昔話の発表

1.4.7 トゥール大学と MOU の調印を行いました

12月12日(火)、田中校長は本校と学術交流協定を締結するトゥール大学(フランス)を訪問し、学術交流協定に関する覚書(MOU)と学生交流に関する細則(MOA)を更新する調印式に出席しました。また、施設見学の他、10月から長期インターンシップとして同大学へ派遣していた本校学生の最終報告会への参加、来年度に本校へ受け入れる学生との面談など行いました。

今年度に入り COVID-19 関連の規制が解除され、香川高専は国際交流活動の再開とさらなる推進を行っていきます。



1.4.8 台湾の大学を訪問し交流を行いました

2023年12月13日から12月17日にかけて香川高専諄間キャンパスの学生6名および教員1名が台湾の国立成功大学、南台科技大学、国立精華大学を訪問しました。

成功大学と香川高専は2021年3月にAIやロボティクスを中心とする学術交流協定MOUを締結しました。2021年度からオンライン授業「Introduction to Image Recognition AI and Robotics Lab」を合同で開講しており、今年が3年目となります。今回訪問した学生6名はこの授業を受講しています。普段はオンライン授業のため学生同士がコミュニケーションを取ることが難しい面もありますが、今回は直接交流できる貴重な機会となりました。香川高専の学生は同世代の成功大学の学生とお互いの研究や趣味、文化などについて積極的に会話し、非常に良い刺激を受けたようでした。

また、以前から香川高専と交流のある南台科技大学や精華大学を訪問し、研究室やキャンパスの見学をさせていただきました。学生は高専とはスケールが全く異なる大きな大学の施設等を見て大変驚いていたようでした。

香川高専ではAIやロボティクスというテクノロジーを共通言語にこれらの大学との交流を今後も継続したいと考えています。

<http://www.kagawakosen-mirai.com/?p=9568>



1.4.9 第1回外国人スピーチコンテストで優秀賞を獲得しました

2024年1月21日（日）に香川大学教育学部において、留学生のつどい（第一部外国人スピーチコンテスト）が開催され、4MSのリム・シヨウ君が30名の予選を通過した11名の中でも優秀賞を獲得しました。

本コンテストのテーマは「日常の生活の中で考えたことや学んだこと」でしたが、シヨウ君は、「生きている書店」という題名で初めて香川の書店を訪れた時の客の多さや本のジャンルの幅広さに驚いたことやマレーシアの書店との違い等を紹介し、みんなにももっと本を買って読んで欲しいと伝えました。



発表および表彰式の様子

1.4.10 本校校長がラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校を訪問しました

3月14日(木)、田中校長は本校と学術交流協定を締結しているラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校(RMUTT, タイ)を訪問し、協定書(MOU)の更新手続きを行いました。RMUTTとは活発な学生交流を行っていましたが、ここ数年間はコロナウィルス感染症により交流ができていませんでした。今回の訪問は、互いに学生交流の再開を確認するものであり、今春にはRMUTTから7名の学生が本校に短期留学します。さらに、夏季休暇には本校学生をRMUTTへの派遣を計画しています。



左上：協定書に更新の調印を行う田中校長(右)、左はソラポン工学部長
 右上：調印後の集合写真
 左下：工学部航空工学研究室での位置合わせ
 右下：調印後の全体写真

1.4.11 学生がタイ高専短期グローバル研修に参加しました

3月17日(日)から23日(土)まで、本校の学生13名は「タイ高専短期グローバル研修」に参加するためバンコクへ渡航しました。この研修は高専機構本部が主催し、沼津高専の学生10名と合同で行われました。期間中、タイ高専(Kosen-KMITL)を訪問し、互いの文化紹介や交流を行い、寮で宿泊しました。また、タマサート大学や日系企業を訪問しました。これらのイベントを通じて、様々な異文化を体験し、英語コミュニケーションの重要性をあらためて感じ、視野が広がったと思います。新年度もいろいろな海外研修を計画中です。



バンコク滞在先での様子

1.4.12 南台科技大学：STUST(台湾、台南市)とMOU 調印式を行いました

2024年3月28日(木)に、台湾(台南市)にある南台科技大学：STUSTと香川高専詫間キャンパスで南台科技大学-香川高等専門学校学術交流に関する覚書(MOU)調印式を行いました。

本校の田中正夫校長からは、「南台科技大学と新たにMOUを締結できることをうれしく思います。今後、多方面において学術交流を進めていきたいと思います。」と挨拶がありました。

南台科技大学の□誠文学長からは「南台科技大学は香川高専と同様に実践的な工学教育を重視しています。このMOU締結をもとに、今後さらに重要になる半導体、AI、ロボット等の分野において、香川高専とともに優秀な技術者の育成に取り組みたいです。」と挨拶がありました。

その後、MOU調印を行い両校の関係者で集合写真を撮影しました。

○南台科技大学：STUSTのHP

<https://www.stust.edu.tw/>

(AI 社会実装教育研究本部、国際交流室)

<http://www.kagawakosen-mirai.com/?p=9641>



1.5 その他

1.5.1 KOSENFES2023（国公立高専合同説明会）に出展しました

令和5年6月18日（日）東京会場（東京都千代田区外神田 秋葉原UDX アキバスクエア）及び令和5年7月16日（日）大阪会場（大阪府大阪市北区大淀中 梅田スカイビルタワーウエスト10Fアウラホール）で開催されたKOSENFES2023（国公立高専合同説明会）に出展しました。

東京会場では個別相談ブースを出展し、相談に来られた方々に対し香川高専の魅力や各学科の特色等を説明しました。大阪会場では個別相談ブースに加え「LEGOブロックを使ったロボコン」をテーマとして体験ブースを出展しました。参加した電子システム工学科の1年生3名がロボットの作り方や操作方法の説明を行い、大変多くの小中学生に体験していただきました。また小中学生や保護者からは高専での勉強や日常生活について多くの質問を受けました。ご来場いただきました皆様、お暑い中のご来場及び本校ブースへのお立ち寄り、誠にありがとうございました。



1.5.2 SPOD「マインドマップ入門講座」を開催しました

令和5年9月1日（金）、香川高専が開催校となり、高知大学 地域協働学部 俣野 秀典氏をお招きし、SPOD「マインドマップ入門講座」を対面形式で実施しました。

本研修は、実際に頭と手を動かしながらMind Mappingを体験することを通して、思考の整理、記憶力、創造的思考力、問題解決力など様々な能力を高め、実践へのヒントを得て業務に活かし、効率化につなげることを目的としており、SPOD加盟校から18名の事務職員が参加しました。

開会では、本校須藤事務部長から受講者へ激励の言葉がありました。

研修では、グループワークを中心に、マインドマップについての説明や、マインドマップの描き方についてのルールや活用方法についてご講演いただきました。

講義の内容やグループワークを通じて、マインドマップを用いた思考の整理などを学ぶことができ、「参加者同士のコミュニケーションが多く、他の人の発想と自分の発想が比較出来てよかった」、「マインドマップの作成方法について学べた」との感想が寄せられ、大変有意義な研修となりました。

なお、本研修は、令和5年度SPOD内講師派遣プログラムにより開催しました。

※SPOD：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク



研修の様子



事務部長からの激励



研修の様子



グループワーク

1.5.3 オープンラウンジが完成しました

この度、高松キャンパスの学生玄関西側に、学生、教職員の共用スペースとして整備していた『オープンラウンジ』が完成いたしました。

ご来校者との待合せや打合せ、学生が保護者の送迎時の待合せなど自由に利用できます。

室内にプロジェクターを設置しており、本校の紹介や学生の活躍を壁に投影し、情報発信の場とするなど、多様に活用できます。

また、学生の各種大会の受賞実績と高専ロボコン全国大会で優勝したロボットを展示しております。

昼休みや放課後には、学生が友達と楽しく話したり、待ち時間で過ごしたり、居心地の良い場となっています。

